

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第6回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）金谷区の地域課題「観光」について（公開）

3 開催日時

平成30年9月26日（水） 午後6時30分から午後7時54分まで

4 開催場所

滝寺集落開発センター

5 傍聴人の数

22人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、伊崎博幸、石野伸二、伊藤三重子、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、土屋博幸、山口茂幸、吉村清正

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・竹内委員、永野委員、西条委員を除く13名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：桑山委員、齋藤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

一次第3議題（1）金谷区の地域課題「観光」について—

【高宮会長】

次第3議題（1）「金谷区の地域課題『観光』について」に入る。

「観光」については、これまでも委員による意見交換を実施してきたところだが、本日は、まず資料No.1をもとに金谷区における観光資源について、全体で情報を共有し、その後資料No.2をもとに「観光」における課題について全体で協議したい。

このとおりに進めることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

まず、金谷区の観光資源について話し合う。

資料No.1について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

資料No.1について説明。

【高宮会長】

資料に挙げられたものの他に、委員が知っている観光資源があれば説明してほしい。また、資料に挙げたものの中で、知らないものがあれば質問をしてもらいたい。

委員に意見を求める。

【土屋委員】

この後の傍聴者との意見交換で話が出るかもしれないが、滝寺不動尊の草刈りを定期的にしたいと希望する団体があり、それをどこに相談したらよいか、会議の中でなくてもよいが教えてほしい。また、金谷地域歴史観光マップを制作した「金谷地域歴史を守る会」について、この会は実際にあるのか、それともマップを作るために作ったのか。

【高宮会長】

金谷地域歴史を守る会について、会長を務めている高橋委員に説明を求める。

【高橋委員】

平成24年頃に作った。

御殿山に高田姫ゆかりの地があることから、いろいろと調べた結果、あちこちに歴史がたくさんあるが皆さんに知られておらず、各地の関わっている町内会も維持管理に大変。これを世の中に出さなければいけないと考え、この団体を作った。当初は10人ほどいた。

今でも、金谷の公民館活動で地域のお宝探しや歴史巡りを行う際、現地に行き説明している。今年は3回に分けて、小学生対象で秋口に行く。回覧板を関係町内会に回してあると思う。教育委員会といろいろ話をしており、大まかなことは決まっているが、小学1年生から6年生まで来ることから、どのように説明すればよいか、資料作りをしている。また、飯小学校の児童が地域の歴史のことを知りたいということで、出かけて行って現地案内や説明等をしている。会津墓地に関しては、本当に維持管理費がかかるし、地域活動支援事業の補助金を活用して会津墓地の案内看板をあそこの前に立てた。会津墓地には会津の方が来ており、去年市長も来た。会津墓地というのは高田だけでなく全国に8～9か所近くもあるが、上越の高田に来ると、いつもきれいに草を刈ってもらい、周りの木の枝を切ってもらっているため、一番安心することのこと。その感謝の気持ちとしてあちこちから多少お金をいただき、町内会にお茶代程度の謝礼を出している。今ある大事なものは残していかないとはいけないうし、管理もしていかなければいけないと考え、この会はいまだに活動している。

観光マップもそうだが、金谷区史という本も出し、各家庭に配布した。A6版と小さく、120～130ページしかないが、金谷区全体の歴史的なものが書いてある。誰がどの田んぼを何反持っていたとか、どの集落で管理していたとか、そういったことは書いていない。以前に金谷村史というのが出されたが、それに載っているのは戦前までのことで、戦後のことは空白になっており、それ以後作っていないことことから、金谷地区歴史を守る会でその後を付け足し、小さい本にして金谷地区に全戸配布してあると思う。観光マップは、市観光課、直江津駅、公民館、市民

プラザなど、あちこちに置いてもらいPRを続けてきたが、観光マップがなくなってきたため、来年辺り、新しく考えながら更に良いものを作っていきたいと考えている。このような活動をしているのが、金谷地域歴史を守る会である。

【高宮会長】

滝寺不動尊の草刈りについては、意見交換の時でよいか。

【土屋委員】

それでよい。

【高宮会長】

金谷地域歴史を守る会では、観光マップのほか、金谷区史、皆さんの家庭にも1冊ずつあるかと思うが、素晴らしいものを作ったという実績がある。詳細は、帰ってから読んでいただきたい。

【伊崎委員】

イベントで金谷北地区農村元気会の朝市が挙げられているが、いつ、どのような時間帯にしているのか。

【高宮会長】

委員の中で分からなければ、後で意見交換の中で聞いてほしい。

石野委員いかがか。

【石野委員】

何を発言したらよいのか分からない。

【高宮会長】

伊藤委員いかがか。

【伊藤委員】

2～3知らなかったものがあり、教えてもらったと、今眺めている。このようなものもあったのかと思っている。

【高宮会長】

意見交換の時に説明を聞くことにした内容について、会議の進行上必要であるため、傍聴人の中で分かる方に今説明してもらおうこととしてよいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

まず、滝寺不動尊の草刈りについて、傍聴人に発言を求める。

【傍聴人①】

滝寺まちづくり協議会の者である。毘沙門堂は3か月に1回、境内までの参道を草刈りしている。滝寺不動尊のところは、入り口の草刈りは私たちがやっている。今年の地域活動支援事業で提案したとおり、不動滝周辺の草刈りも予算計上しているが、どこまでしてよいか分からない状態。そのため、外見の部分で入り口は刈っており、中まではきれいにならないが、側（がわ）や不動尊はきれいになっている。もっと刈ってほしいと言われても、愛の風公園やミズバショウ群生地もある。3か月に1回ずつローテーションで回しており、毘沙門堂をしながら不動滝周辺をしている。全くしていないわけではない。もっときれいにした方がよいとなれば検討するが、現在の参加人数ではそれくらいしか回れない。

【高宮会長】

土屋委員の意見は、手伝いをしたいということではなかったか。

【土屋委員】

そのとおり。刈られていないという意見ではなく、手伝うにはどうしたらよいかということ。

【傍聴人①】

基本的にはボランティアでしている。月に1回、基本的には第2日曜日を活動日としており、午前8時に滝寺集落開発センターに集合し、午前中掛けて仕事をする。不動滝周辺だけとはいかないため、不動滝周辺とどこかという形になる。不動滝周辺は毘沙門堂と同じ時にしているが、今シーズンの毘沙門堂の草刈りは終わった。11月まで第2日曜日を活動日としているため、協力してもらえるなら、滝寺集落開発センターに来てもらい、一緒に仕事をさせてもらえたらと思う。雨天決行である。

【高宮会長】

事前に連絡した方がよいのか。

【傍聴人①】

午前8時までに集まってもらえればよい。ただ、町内の行事と重なるなど、第2

日曜日が活動日でない時がある。その前の月に広報で次回の予定を知らせているが、町内の方にしか回覧、配布していないため、連絡が欲しいのであれば、個人的に連絡する。

【傍聴人②】

まちづくり協議会の仕事は結構広い。ミズバショウの整理や、当然草刈りもあり、滝寺砦などを歩く古道の整備など、範囲が非常に広いため、草刈りのみ手伝うという場合、それを言ってもらわないと、せっかく来てもらったのにミズバショウの整理をしていただく場合もある。いろいろな作業をしており、その時その時によって作業の内容が変わる。そのため、来てもらえるのであれば、仕事を選ばないでほしい。

【石野委員】

ボランティアは募集しないのか、募集しても集まらないのか、募集の方法が分からないのか。課題が見えてこないのだが、現状はどうかを聞きたい。

【傍聴人①】

ボランティアは固定化していて、なかなか集まらない状態。ボランティアの募集として、町内へは広報を出しているが、外部へは発信していない。すればよいのだが、イベントではないため、なかなか。町内の方はボランティアの保険がかかっているが、外部の方だと保険の問題もあるため、その方法も変えていかないといけない。まずは、滝寺の人にもっと集まってもらえるように頑張りたい。

【石野委員】

どうやって滝寺町内にアナウンスをしてボランティアを集めるか、ということであるため、金谷区地域協議会には関係のない話。全体的な話とは少し違うかな。

【傍聴人①】

そのとおり。地域協議会の話ではないと思う。ただ、地域活動支援事業の補助金を活用させてもらっているため、報告を出さなければいけないということもある。大人数でやった方がPRになっていくと考えている。

【高宮会長】

金谷北地区農村元気会の朝市について、傍聴人に説明を求める。

【傍聴人③】

金谷北地区農村元気会では、朝市とアジサイロードなどの散策会もやっている。それから、滝寺の米を作っている人たちで、米の直接販売みたいなこともしている。これらにはそれぞれ親方がおり、自立していくことを目標にしている。

朝市に関しては、昭和町の旧信用金庫支店のところで月曜と金曜の朝6時からしている。それから、御殿山町の山麓線沿いにある飲食店で毎週金曜日の午前10時から午前11時までの1時間という形でしている。今年からは昭和町の旧信用金庫支店の先にある寺町のカフェ店で月曜、水曜、金曜に、品物を渡して売ってもらい、夕方回収に行くということもしている。また、月に2回程度、上越妙高駅構内で午前9時から午後3時まで朝市をしている。月1回の時もあるし、月2回の時もあるが、4月から11月までと2月か3月くらいにしている。それから正善寺工房での年4回の祭りでも朝市をしている。午前9時から午後3時くらいまで。

【高宮会長】

また一つ、勉強になった。

【石野委員】

観光の何についてまとめ、どのような方向に持って行こうとしているのか。

【高宮会長】

金谷区における観光資源についてどのようなものがあるか、全体で共有してもらいたい。その後、資料No.2をもとに、観光における課題について全体協議していきたい。今回は滝寺集落開発センターに来ているため、滝寺の話が中心になっているが、各委員の地域の中で何かあれば発言してほしい。金谷区南部のことについて北部の委員では分からないこともあると思うため、そのようなことを共有したい。

吉村委員いかがか。

【吉村委員】

資料の内容を確認しているが、いまいちピンと来ていない。

【石野委員】

イベントの中で、南葉山で行われているタケノコ汁のイベントが挙がっていない。

【川住副会長】

あれは金谷体育協会が主催。

【石野委員】

イベントとしてはあるだろう。

【山口委員】

資料には今まで全然知らなかったものがたくさんあり、これを勉強するのはよいと思うが、今日はどうするのか。非常に関心は持っている。

【齋藤委員】

観光資源については、ほぼ網羅され、出尽くしていると思う。また話の中で出てくると思うため、次に進んでほしい。

【高宮会長】

今ほど話し合った観光資源については、委員全体で共有し、今後の協議に生かしていきたい。

次に進んでよいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

観光に関する課題について協議する。

資料No.2について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

資料No.2について説明。

【高宮会長】

現状の問題点から協議していきたい。資料No.2の「現状の問題点（課題）」で挙げられているものは、過去に委員で協議したもの。このような問題点が他にないか、委員に意見を求める。

【川住副会長】

ダムについて説明したい。

儀明川ダム期成同盟会という会があり、自分が会長をしているのだが、今度正善寺ダムを見学することになり、先日その下見に行った。金谷区には現在、正善寺ダムと後谷ダムの2つのダムがあり、今後計画されているのが儀明川ダム。県内では現在ダムを2つ造っている。奥胎内と柏崎の鵜川。奥胎内はものすごく山の中で、鵜川は大きいダム。それができると次は儀明川ダム。平成35年頃という話が出て

いる。先日県庁へ行き、要望書を出してきた。ダムが一番の目的は治水だと思う。本町などの市街地が水に浸からないようにするのが目的。その他に、治山治水として、金谷南部の水不足の解消ができないか、相談に乗ってもらいたいという話もした。それと、ダムは長年にわたって造る。ダムは向橋なので市街地から非常に近い。高速道路の出口からも信号がなく5分くらいで着く。上越妙高駅からも近い。そのような場所にあるため、子どもたちにダムはどのようにできるのか教える、教育資源。それから観光ということで、4つに分けて要望してきた。観光については、新潟県で現在予定されている最後のダムになるため、ぜひ造っているところを見られる施設を作ってほしいと話した。先方もそのようなことは十分考えているようだった。今の観光というのは、神社仏閣を見て買い物をして終わるというものではなく、体験的な観光も非常によい観光になる。大勢の人が来れば、自動販売機も利用するし、野菜を買って帰る人も大勢いると思う。新幹線で来る客は重いものを持って帰らない。やはり車で来る客を対象に、野菜や米などを販売するよう考えた方がよい。その辺を話したところ、非常に話に乗ってもらえた。今後そういうダムの会議ごとにこういった点をアピールし、見学コースや土産物についても考えてもらうようにする。あくまで要望であるため全部実現するわけではないが、話を聞いてもらわないと実現できないため、要望してきた。来月県の課長とダムの同盟会があるため、そのような話をお互いに腹を割って話し合い、観光事業や教育事業に結び付けられるようなダムを造っていきたい。また、非常にダム同士の距離が近い。正善寺から中ノ俣に行く道を少し下ると、儀明川の源流。そこから向橋には15分くらいあれば行ける。非常に近距離であるため、将来観光ルートになればよい。そういったことも視野に入れながら、観光事業を考えていった方がよい。今の観光者は物を買うだけではない。何かを体験したいと思っている人も多いため、将来川の中で遊べるような方向まで考えた方が観光事業に繋がるのではないかと。

【石野委員】

川住副会長の説明に補足したい。県外の人が金谷地区で一番来ているのは、人数的には恐らくキャンプ場だと思う。それに次いで多いのがダムだと思う。ダムカードを集める方が、四国、中国、九州の方はあまり来ないが、関西の大阪や兵庫、そ

れ以外では埼玉が多い。ダムカードを集める人が非常に多い。その中でも、4年ほど前から見ているが、昔は1人でカードを集めている方が多かったが、今は定年になって余裕ができた方々が夫婦で回っているという人が多い。そのような方は全国を回るため、日帰りということはない。どこかに泊まる。私が会った方では、前日は赤倉に泊まり、こちらに来たという人たちが多く、中には車で泊まる人もいる。そうした時に、販売という部分で、日持ちのするものでないと駄目。それを考えると、野菜は駄目だが米なら日持ちする。そのようなことを具体的に考えていければ。傍聴人に正善寺工房の関係者がいれば参考にしてほしい。ダムカードを求めて来た方に、パンフレットや、このようなメリットがあるというチラシと一緒に渡してほしいと言われたら、私たちもいろいろ検討したいし、できると思う。観光という部分で、来てもらうだけでなく、地元にお金を落としてもらうような策を考えていくべきである。

【齋藤委員】

ダムカードというのは初めて聞いた。県外の方が遠くからも来ているということで、なるほどと思った。そのような方々がいるということは、非常に明るい部分がある。その他に巡ってもらえば。金谷だけでなく、他にも春日山などにも足を延ばす。どちらがメインかは分からないが。ダムカードとはどのような仕組みか。

【石野委員】

ダムカードというのは、普通のカードの大きさで、濃い紺色。全国共通のフォーマットで、裏にこのダムはどのような形で造られているとか、貯水量などのダムの仕様が詳細に書かれている。今は全国でおよそ600枚弱発行されている。ダムの数は新潟県が1位。佐渡に3つある。また、沖縄も20枚弱ある。沖縄まで行って集めている方もおり、「1回行ったが、また新しく1個できてしまい、1個のためにまた行くのも大変。」とか。去年、広島から自転車で回っている少年もいた。北海道から来る人は非常に少ない。関東圏が非常に多い。

【齋藤委員】

そのような方々はダムが目当てか。

【石野委員】

そのとおり。

【齋藤委員】

例えば、山であれば100名山や200名山など、いろいろな挑戦の仕方がある。ダムではそのようなことはないのか。

【石野委員】

そのようなものはない。国土交通省からが始まりと言われている。昨年、柏崎でダムのスタンプラリーをして、全て回ったら建設中の鶴川ダムのカードがもらえるというイベントをしていた。カードを作る費用の問題はあるだろうが、そのようなことをしていた。

また、新潟県に2つか3つあるが、ダムの下流域のレストランや食堂で、ご飯をダムの形にして、そこにカレーのルーを入れてダムカレーと。そのカードも作っている。そこに行って食べないとそのカードはもらえない。この前初めてそれを見せてもらったが、黒部ダムにもあるらしい。

【齋藤委員】

正善寺ダムで食堂は難しいが、下に降りれば正善寺工房がある。そこでダムカレーというのもよい。

【石野委員】

しっかりダムの周りを見ながら写真を撮って歩く人が3分の1。3分の1は、少し見るがすぐに帰る。もう3分の1は、完全にカードだけ集めに来る。

【高橋委員】

ダムマニアというのはいる。例えば、コンクリートのダムが素晴らしかったとか、石積みのダムが素晴らしかったとか、全国で一番低いところのダムや高いところのダムをいろいろ回って歩く。ダムマニアというのは大勢いるらしい。テレビで紹介されていた。

【齋藤委員】

例えば、金谷区ではないが、笹ヶ峰ダムにも行くだろう。

【石野委員】

私たちも、載ってはいないが笹ヶ峰でも去年か一昨年から発行していて、夏場し

かもらえないと教えている。正善寺ダムを見た後は、必ず柿崎などのダムを見たりする。どのくらいかかるか、といった話をする。ただ、土産や名物の話はほとんどしない。

【高宮会長】

そのようなものを儀明川ダムで。これから地域との意見交換もあるので、大いに生かしてほしい。この金谷地区に観光客がたくさん来るような形で、お金を落としてもらうことに結びついてほしい。

【村田副会長】

正善寺ダムに行ったら、正善寺ダムだけでなく、正善寺地域、滝寺地域の名勝地などがお知らせできるよう、例えばパンフレットなどが置かれるとよい。実際に聞いた話だが、「うみがたり」はそこで終わってしまう。例えば直江津なら国分寺や安寿と厨子王の供養塔など、素晴らしい名勝地があるにもかかわらず、そのような案内が何もないようだと言う。そのため、うみがたりだけで終わってしまう。そのようなものが分かり、さらなる観光に繋がるようなものを、うみがたりで案内するべきではないかという声が多くあるそうだ。正善寺ダムは県の所管であるため、そのようなものを置いてよいか分からないが、例えば滝寺や正善寺の皆さんで、「この後こういうところがあるので、ぜひ正善寺工房へ」という案内を置く。分かるように道案内をしておけば、そこに来るだけでなく、そこでお金も使ってもらえるようになると思った。上越まつりや謙信公祭、高田城の観桜会では、100万人だとか来場者人数を書くのが一般化している。だが、どのくらいお金を落としてもらったなどもあってしかるべき。100万人来たというだけで、どのくらいお金を落としてくれたのか、みんな知らない。そのように目線を変えるのが、これからの観光の1つの旗印なのかと思っている。

【高宮会長】

それをこの金谷地区にどう生かすか。それが、資料No.2に書いてある現状の問題点に繋がっていくのではないか。今、儀明川ダムの話が出た。これを機に、このようなものを結び付けていくことによって、金谷地区の観光に結びついていくのではないかと感じた。

【石野委員】

ダムのところの玄関の下駄箱の上に、上越地域の観光地のようなマップを何種類も置いてあるが、それを持って帰る人は少ない。目ぼしいものはダムカードだけのようだ。

また、ダムカードはバージョンゼロから始まり、今はバージョン1。バージョンゼロから1に変わった時、QRコードが付いたのだが、ダムマニアの方はすぐに新しいダムカードを求めて来た。バージョン2がいつ出るかは分からないが、カードをうまく更新すれば何回も呼べる。

【高宮会長】

それを金谷区で生かしていきたいと思う。よい例ではないかと思う。

【石野委員】

奥胎内や鵜川では、建設途中の状態のダムカードを何回も発行している。それでかなり人を呼べる。今後、大きなスポットになると思う。

【吉村委員】

ダムには月に大体どれくらい来るのか。商売になるくらいに来るのか。

【石野委員】

人数的にはお盆が一番多い。一番多い日で約20組。1組最低2人としても40人は来ている。県内の人もあるが、ゴールデンウィークなどの長期の休みの時は県外の人が非常に多い。

【吉村委員】

連休など日のよい時は、賑やかだと思うほど人が来るのか。

【石野委員】

正善寺ダムは2階に事務所があるが、上がっては降りての繰り返し。昼休みでも関係なし。早い人は午前7時くらいから来ており、勤務時間前でも渡している。ただ土日や祝祭日は職員がおらず渡せないため、その時は基本的には来ない。ダムの中で24時間365日対応しなければいけないダムは職員がいる。大きなダムで、ゲートを持っているダム。正善寺や柿崎はゲートを持っていないため、午前8時半から午後5時までしかいない。封筒に返信の住所を書いて入れてあれば、それで発

送している。土日はそのような対応をしている。

あじさいの里まつりの頃、富山から団体が大きな観光バスで来た。ついでにダムカードをもらいたいと来た。夜は分からないが、昼間一番多いのは老人施設の車。駐車場に止め、その辺を少し回り、すぐに帰って行く。いろいろな施設の名前が多くあり、覚えられないほど数が出る。

【齋藤委員】

ダムはやはり集客力がある。例えば黒四ダムなど。どこか惹きつけるところがある。

【高宮会長】

今いろいろどのようにやるかの意見も出てきた。先ほど金谷北地区農村元気会の話もあったが、物を売るといふ辺りでどう協力してもらおうかというところにも繋がっていくのではないかと思う。

【石野委員】

資料No.1の【レジャー、施設】と、【景勝地、見学スポット】について、期間限定なのか通年なのかを教えてください。

正善寺工房は通年だろう。

愛の風公園は夏場だけで、冬はないだろう。4月から11月くらいまでか。

【傍聴人②】

そのとおり。紅葉は他より遅い。

【石野委員】

愛の風公園の来園者が一番多いのは秋の紅葉の時か。

【傍聴人②】

春の時だろう。学校の遠足などで来る。

【石野委員】

5月のゴールデンウィーク明けくらいからか。

【傍聴人②】

ゴールデンウィークの方が多いい。

【石野委員】

スーパーボブスレーは11月くらいまでであるのか。

【川住副会長】

冬はスキーに変わる。

【石野委員】

スキーがあると通年になるが、スキーは雪が降らないと駄目。

スキー発祥記念館は、冬も開いているのか。

【村田副会長】

開いている。

【石野委員】

学習施設「ホタルの宿」はどこにあるのか。

【高橋委員】

「ホタルの宿」は金谷山にある。立派なものである。

【石野委員】

金谷山の裏側か。

【高橋委員】

ボブスレーの受付の手前から入る。地域活動支援事業の補助金を使い、奥まで舗装している。

【石野委員】

BMX場はレジャーだけで、観光的な部分ではなく運動が主だろう。

【村田副会長】

しかし全国から来る。

【石野委員】

7月の大会だけで、練習で来ている方はいないだろう。

【伊藤委員】

いや来ている。うちの孫も連れて行ったが、地元の人ほとんど来ないらしい。管理人に聞いたところ、知られていないとのこと。200円でヘルメットと自転車を貸してくれて、1時間乗り放題である。体力の余っている孫や子どもがいる方は、そこに連れていくとよい。

【高橋委員】

全国大会をしている。

【齋藤委員】

非常に評価が高い施設である。

【石野委員】

県外から来た方は宿泊されるのか。自分の車か。

【伊藤委員】

バスでトレーナーと来て、そこで1日練習して帰る。

【石野委員】

日帰りか。

【伊藤委員】

日帰り。自転車も積んでくるらしい。

【吉村委員】

大きい車で牽引（けんいん）を付け、自転車を何台も持ってくる。

【石野委員】

もうかるのはヨーデル金谷だけか。

【高橋委員】

上越市にはいろいろ食堂があるが、レストランという名前はヨーデル金谷しかないそうだ。洋食専門店。だからラーメンはない。

【石野委員】

平山キャンプ場は一般公開しているのか。

【村田副会長】

インターネットでも公開している。300円で利用できる。4月末から10月いっぱいまで。

【石野委員】

月に何組も来るのか。

【村田副会長】

たくさん来られる。このあいだの三連休で5組くらい。

【石野委員】

家族が多いのか。

【村田副会長】

友達や仲間。

【石野委員】

地球環境学校は、営業は通年か。

【牛木委員】

全てNPOでやっており、詳しいことは分からないが、結構来ている。たまに我々年寄りも昔の話をするのに駆り出されている。

【石野委員】

来る人は小中学生が多いのか。

【牛木委員】

そのとおり。地元の学校で、4年生頃。

【石野委員】

4年生の校外学習か。

【牛木委員】

そのとおり。

【伊藤委員】

何をするのか。

【牛木委員】

山や川で騒いだり、話を聞いたり。

【石野委員】

南葉高原キャンプ場は、5月の上旬から10月末までだろう。

【高橋委員】

利用者は年間1万7,000人。上越市内にキャンプ場は8か所ほどあるが、他は1年間で1,000人未満や、多くても2,000人だが、南葉高原キャンプ場は1万7,000人来ている。何とかPRしようと一生懸命しており、南葉御膳やレディース御膳がある。どちらもコロッケが売りもの。私はコロッケを買ってきて

あちこちに配っている。ふきのとうの味がしてうまい。ヘルシー食品で、ひき肉などはあまり入っていない。南葉御膳は1,000円である。

【石野委員】

知り合いと南葉高原キャンプ場の話をしたが、管理事務所近辺に大きい駐車場がない。そこまで車で行けない。下に停めて歩いて上がっていかないといけないため、もう少し近くにあったらよいと聞くが、なかなか場所がない。

【高橋委員】

あれでも多少は増やした。地域活動支援事業の補助金を使い、駐車場を増やしてもらった。

【川住副会長】

20台分くらいの駐車スペースが増えた。

【高橋委員】

下の駐車場はいつも草を刈って用意している。距離にすれば200メートルくらいあり、歩くのが大変と言われる。5～600人は大丈夫。

【伊藤委員】

コロッケはいつ行っても買えるのか。日曜日でもよいのか。

【高橋委員】

コロッケだけでもよいが、南葉御膳などについている。食堂のメニューにコロッケとは書いていない。いつでも大丈夫。休みはない。年間の最終日は文化の日まで。4月29日の旗日から始まり、11月3日で終わり。

【石野委員】

ミズバショウの自生地だが、メインは4～5月か。

【傍聴人②】

桜が咲く時と一緒に。上越市の桜が満開の時に、ちょうどこちらも見ごろになる。

【石野委員】

見ごろは1週間くらいか。

【傍聴人②】

20日くらいは十分ある。うまくいけば1か月くらい見られる。

【石野委員】

正善寺ダムは、冬の間は駄目。ダムカードも1～3月までは10組あるかないか。都会の人はスノータイヤを持っていないため車で来られないし、歩いて来られない。アジサイロードは、ダムの下からずっと指定されているのか。

【傍聴人②】

下正善寺の入り口、高速道路の下から。

【石野委員】

上は橋のところまでか。

【傍聴人②】

管理棟まで。

【石野委員】

管理棟から上はアジサイロードではないのか。

【傍聴人②】

アジサイロードではない。

【石野委員】

あそこは市道になっている。

【傍聴人②】

正善寺紫陽花会で管理している。

【石野委員】

春日山古道は5月から11月くらいまでか。

心のふるさと道も4月から11月くらいまでか。これは歩けるのか。昔の道はあるらしいが、人が通れるかどうか知らない。

【傍聴人③】

十分通れる。標識が立っている。

【石野委員】

景勝地に中ノ俣とあるが、これは棚田や段々畑など、全体的な景色だろう。そうになると、冬はなかなか厳しいか。雪解けから雪が降るまでだろう。

林道南葉高原線は、工事をしていて通れないところか。今も工事をしているのか。

【牛木委員】

中ノ俣の地すべりが大きい。今も工事をしている。

【高橋委員】

大貫から中ノ俣へ行く県道は大丈夫か。

【牛木委員】

県道は大丈夫である。

【高橋委員】

滝を見に行く道もある。

【牛木委員】

そこは工事が終わったようだ。

【高橋委員】

滝見台は大丈夫か。

【牛木委員】

壊れているかもしれない。

【石野委員】

ホタルの里は6月から7月の上旬までくらいか。

【川住副会長】

そのとおり。

【石野委員】

儀明川ダム建設予定地は、今は看板も何もない。

【川住副会長】

今設計している。

【石野委員】

地図上に現れているだけ。

後谷ダムも雪解け後から夏場だけ。

城山浄水場があるのに、なぜ正善寺浄水場がないのか。正善寺の方が浄水規模は大きい。ただ、簡単に見学はさせてくれないと思う。事前予約が必要だろう。

【傍聴人②】

正善寺工房で祭りがある時は、正善寺浄水場に車を停めてもらうため、時間のあ
る方は見学できる。

【石野委員】

できたての水は塩素が強いため、あまりうまくないと思う。

里道（旧後谷線）は今整備中であり、今のところ完全ではない。

【高宮会長】

協議の途中であるが、続きは後日の協議会でお願いしたい。

次回は「雨水排水」を議題に取り上げることから、「観光」の協議はしばらく先に
なるが、「雨水排水」の協議が一段落ついてから再開したい。

— 次第 4 事務連絡 —

【高宮会長】

次第 4 「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・今後の日程

第 7 回地域協議会

10月24日（水）午後 6 時～ 福祉交流プラザ 第 1 会議室

- ・配布資料

高田区地域協議会意見書（写）

ウィズじょうえつ

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。